

踏 み 跡 < My mountains >

上越	土樽から万太郎山・中ゴ-尾根	No.088
----	----------------	--------

昭和42年6月24日

巻機山からちょうど一年、同じ越後の山で一年間の交友を記念しようということになり、同じ列車で太田・阿部の二人は苗場山へ私と石関は万太郎山へ。いつもの夜行列車で四人で上野駅を出発。

昭和42年6月25日

土樽5時05分着、苗場山組と別れて一足先下車。正午に向き合って黙祷でも…ということになった。

土樽の駅舎の中で食事の後出発。万太郎橋を渡り吾策新道(*註)に入る。

なまぬるい南風が吹き、雲の流れも何となく気分が悪い。一雨降られそうな気がする。

8時30分、独標(1450m)で万太郎谷の残雪を見ながら昼食(朝食?)。万太郎谷の残雪がガスの切れ間にぼんやり見えてきた。9時15分出発。ひたすら尾根上を南に向かって登り続ける。

10時30分、万太郎山(1954m)に到着、狭い頂上に何人かの登山者がうろついているが、一面のガスで景色は何も見えない。

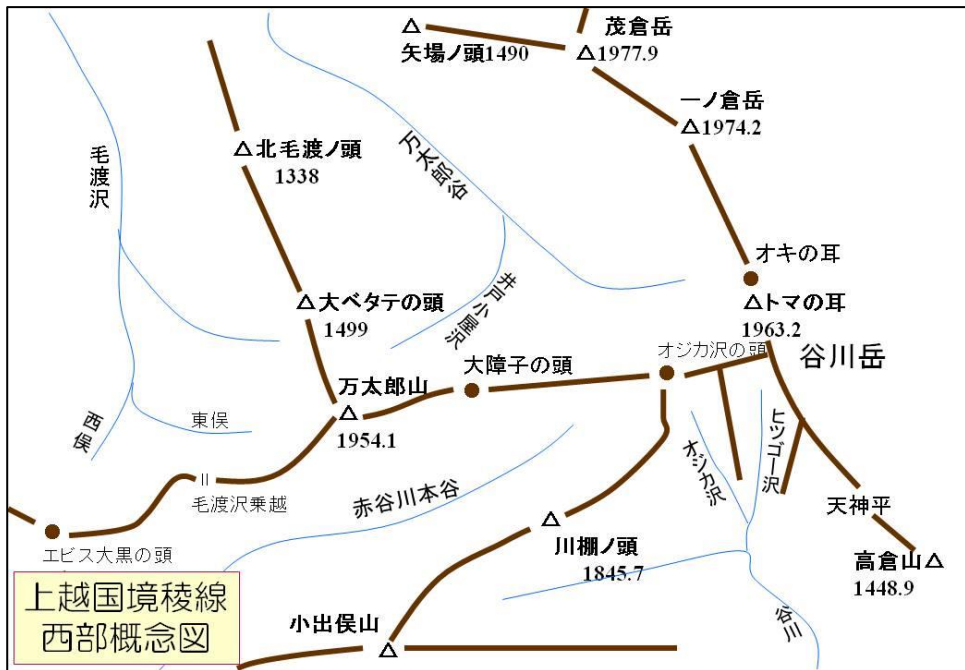
からっと晴れた青空、緑なす草原、白く残雪の模様…6月の上越国境の山にはこんな期待を持って出かけてきたのだが、もの見事に外れてしまった。11時に万太郎山を出発。

正午は大障子小屋(1676.2m)の近くで迎えた。谷間のガスも薄くなり、彼方に苗場山がかすかに姿を見せてくれた。草原に腰を下ろして遠くに目をやる。じーっと見ていると、オーイと呼ばば返事が帰ってきそうに近く感じられてくる。約束の黙祷(?)のあと草むらに横になってうつらうつら。

鼻の頭に雨滴を感じて飛び起きると、雨の降り出しが長いインターバルでポツン、ポツン。

あわてて歩き出し、オジカ沢の頭(1890m)を越えて中ゴ-尾根に駆け込んだ頃にはもう土砂降り。尻をこするよな急な下りの中ゴ-尾根は雨でさらに悪い状況。ずぶぬれと泥んこで三時間歩き、谷川温泉に16時50分にたどり着いた。何だかほっとして力抜けし、溜息を漏らしてしまった。

水上行駅行のバスは17時30分発。水上発18時04分の列車に乗り、高崎で乗り換えて上野に着いたのは22時37分だった。



くもりぞらに 越後の山もみえぬぞ さびしいぞ

さる方の詩の一節がびつたり山旅だった。

以上

*註: 吾策新道…土樽山の家の主 高波吾策氏の名から付けられた。白土三平の漫画に出てくる「風魔砦の首領」のような顔のおじさん

(修正・更新:2023年11月)